



# でんえい会誌 第26号

名古屋工業大学電気系同窓会誌

<http://www.denei.jp/>



## ＜ なごやロボット・IoTセンター ＞

名古屋工業大学産学官金連携機構長 江龍 修

平成28年度より、名古屋工業大学4号館1階に、名古屋市主催「なごやロボット・IoTセンター」が開設されています。新年度で3期目を迎えることになり、更なるユーザーサービスの向上を目指しています。官と学が一体となり、産業界への具体的な貢献を目指す組織として、産学官金連携機構の人材育成プログラムの一環として運営をさせて頂いております。社会貢献機関としての名古屋工業大学の一つの在り方として、本プログラムのご紹介をさせて頂きます。

### 設置における社会的背景

明確な意思表示として、中小製造業のための産学官金連携による、地域ロボット・リテラシー向上に寄与させて頂きたいという願いがありました。自動車産業を取り巻く世界的環境の大変革により、中京圏の中小製造業を取り巻く環境が大きく変化し続けております。大企業の現地製造・販売の流れが加速し、大企業生産拠点の海外移転に伴い、国内の部品製造需要の極端な現象が起きました。この現象は、需要の減少のみならず、単一生産ロットの削減と高品質の少量多品種製造が求められるようになりました。品種替えにおいては人手ニーズの増加を伴いますが、工科系人材の相対的不足と収入減に伴う雇用の抑制が発生し、大企業からの要求に応じ切れません。その為、「製品精度要求を満たす範囲内において」中小企業においてロボットの導入が強く求められる状況になりました。単に人の置き換えという行為ではなく、エレクトロニクスによって制御されるロボット機器は、自動的に製品のトレーサビリティ化を実現することとなり、海外拠点への部品輸出要請に応えることに繋がります。エレクトロニクス

制御による情報収集、即ち、現場IoTの実現と人手ニーズへの解消を同時実施する手段として有効な方策であると考えました。

### ロボットの現場導入に対する高いハードル

国内外の中小企業にとって、自動化とロボット導入のニーズは極めて高いものの、いざ、ロボットを導入しようとした時には、多種多様な知識が要求されます。加えて、工場ラインにおいてどのような機種をどのように配置すれば、求める成果が得られるかを、工場のレイアウトまで含めて検討する必要があります。これらの複雑な要求に対して、社会的にはロボット開発企業とそれを使用して利益を生み出す企業との間に「ロボットシステムインテグレーター (SIer) と呼ばれる橋渡し企業が存在します。そのSIerは丹精込めて中小企業向けのシナリオを作成しますが、コストを掛けてカスタマイズしたシナリオを作成しても、中小企業側の理解が得られることは少なく、受注に至らない課題が山積しています。また、金融界においても技術開発に対するロボット導入の価値を理解することは困難であり、中小企業への投資に繋がらない状況です。

### 製造オペレータのパートナーとなることを目指して

上記課題の解決のため、社会的中立機関である国立大学法人内に産学官金の連携によるロボット・リテラシー教育の場と地域の中小製造業の自動化・ロボット普及を実現するセンターを設置いたしました。企業が抱える課題をロボット導入によって解決できるかを、企業で事前に検討できる「産業用ロボット導入ガイドライン」を策定し、経済産業省中部経済産業局より発信して頂き、広く成果を社会共有を致しました。これにより「何をなすべきか」を理解した上でセンターが提供する講座の受講が可能になり、産学官金連携による中小製造業の自動化・ロボット

普及の推進に取り組んでいます。ロボットシステム、IoTシステムに加えサイバーセキュリティ対策の講座も展開し、社会貢献に資する取り組みとして、ご理解の程、宜しくお願い致します。

## ＜ NITech AI 研究センター ＞

情報工学教育類 伊藤 孝行 (Ih7)

【概要】NITech AI 研究センターは、地に足のついた AI 技術をコアとするイノベーションハブとして、社会や産業の発展に貢献するために 2018 年の 4 月に設立されました。社会や産業の課題に対し、名工大の広範な工学分野と緊密に連携しソリューションを共創します。当センターは 4 つのミッションを追求します：（1）先端的・革新的な知能計算技術の追求（2）幅広い出口による産業界・地域社会への貢献（3）学術・産業グローバル展開（4）AI 人材育成。これらのミッションを達成するために、先端知能計算研究部門、データサイエンス研究部門、情報基盤研究部門、および社会連携部門を設置しております。特に、2020 年 7 月に日本で開催される AI の最高峰の国際会議 IJCAI2020 の開催に中心的役割を担うなど、AI 技術による東海地区を中心とした日本の産業の強化に貢献して行きます。



【キックオフシンポジウム】2018 年の 5 月に国際シンポジウムを開催しました。第 1 部は、センター長 伊藤孝行、David C. Parkes 教授（ハーバード大学）、岡島 博司氏（トヨタ自動車）、Joaquin Delgado 氏（Groupon）による講演、および、野田 五

十樹氏（産業技術総合研究所）をゲストに迎えたパネルセッションを行いました。第 1 部には約 200 名の参加者にお集まりいただきました。第 2 部は、NITech AI 研究センター構成員らによるショートプレゼンテーション、ポスター発表を行いました。100 名の参加者と直接対話をし、問題意識や共同研究のお話を共有することが出来ました。

【グローバル戦略：人工知能国際会議】人工知能国際会議（IJCAI2020: International Joint Conference on Artificial Intelligence）を、センター長の伊藤孝行（人工知能学会理事）が、現地実行委員長として招致に成功しております。IJCAI は、人工知能研究では国際的に最も中心かつ重要な会議です。2018 のストックホルム大会では、本年 ACM Turing Award を受賞した Yann LeCun 先生（FaceBook）が招待講演を行うなど、国際的に最先端の AI 科学技術の研究者 4000 人以上が一同に会す場になります。IJCAI2020 は、首相官邸や内閣府が発表している AI 戦略にも明記されており、本センターでは IJCAI2020 を成功させます。

【人材育成：人工知能技術戦略コンソーシアム】AI 人材の育成が急務です。企業・大学・研究機関の組織横断的な交流の場を提供することにより、人工知能技術と IoT 技術に関連する情報の共通認識を構築し、コア技術の深い理解を得るとともに、次世代の社会システムの仕組みを共創を通じて創成することを目的として、人工知能技術戦略コンソーシアムを本学に設置しました。コンソーシアムは 7 月開始で、AI 技術習得セッションと技術戦略共創セッションからなります。申し込みは 6 月までです。詳細は以下のページをご覧ください。

<https://tic.web.nitech.ac.jp/sangaku/consortium/ai/>

### 【お問い合わせ】

共同研究、技術／学術相談、人工知能技術戦略コンソーシアム、人工知能国際会議（IJCAI2020）、など、お問い合わせは以下までお願いいたします。

EMAIL: [airc@itolab.nitech.ac.jp](mailto:airc@itolab.nitech.ac.jp)

## ＜ 電気系の最近の動き ＞

電気・機械工学教育類 平田 晃正

本学より推薦いただいた、日本学術振興会賞の受賞に大変感激していたが、日本学士院より、さらにその受賞者 25 名の中から学術奨励賞 6 名に選定いただいた。受賞題目は「人体複合物理と生理応答の統合計算法と応用に関する研究」であり、その受賞までの経緯をこの場をお借りして紹介させていただく。

私の研究者としての始まりは、大阪大学における通信工学の勉強であった。専門は計算機による電磁波伝搬、特に電波とプラズマの相互作用解析である。当時何となく始めたテーマは、どことなく自分の求めていたものとは異なっていたため、もう少し身近な電波に関する研究をと、当時普及し始めた携帯電話のアンテナ、その人体との相互作用について独学で勉強を始めた。その際、藤原修先生（現在本学名誉教授）が、電磁界の人体ばく露量を先進的に解析されていることを知り、一連の論文に触発されて同様の研究を始めた。この分野における私の最初の論文は、複合物理計算を用いて電波照射時におけるヒト眼球における電力吸収および温度上昇の変化を考察したものであり、藤原先生の内容を発展させたものである。その後、私が初めて参加した国際会議（カナダ）にて藤原先生にお目にかかった。

この国際会議で、私は大きな刺激を受けた。藤原先生とお話しさせていただいたことに加え、医学・生物系の研究者ともお話しさせていただき、「ヒトに関する物理が再現できても医学との乖離があり、どのように役に立つのかわからない」と率直な意見も頂いた。どうすれば多方面の研究領域に貢献できるか。工学、特に計算科学が専門であった私に混迷の日々が始まるとともに、この研究テーマがライフワークになっていった。そうしているうちに、ご縁があり、2004 年より本学でお世話になることとなった。

本学に赴任して以来、受賞研究テーマに専念させていただく中で着目した点が、ヒトの生体応答だった。例えば、人は温度が上がると血流変化や発汗によって体温を下げる。電気刺激によって神経が応答する。この生体応答を計算によって再現できないか。複雑そうに見える複合物理でも、体内の深部におけ

る現象などを一つ一つ改良・高精度化した上、物理とはまったく異なる近似式の組み合わせにより生理反応も再現する技術を開発するなど、発想の転換と試行錯誤の末、10 年以上をかけて当初の物理のみであった計算技術を、複合物理計算とその物理量に応じた生体応答を再現可能にする技術に昇華させることができた。

現在、上記技術は、物理計算分野にとどまらず、生理学・神経科学、医用画像、機械学習など、性質をまったく異にする幅広い分野と融合する学際的色彩を帯び、結果として電波に対する国際安全基準の策定の根幹となす手法として認知されるのみならず、複数の医療診断技術の開発、気象情報と連動した熱中症リスク予測など多方面で実を結び始め、開発した私自身が驚いている。

上記の成果は、学際的テーマに至るまでにかかわってきた方々との出会いが大きい。また、優秀で向上心のある大学院生、ポスドク研究員と様々な意見を交わす機会にも多く恵まれた。2019 年 4 月より、本学に先端医用物理・情報工学センターを設置、そのセンター長を仰せつかった。机上でとどめることなく科学による社会システムの構築、標準化、法制化などへの貢献が研究者としての重要な使命であることを念頭に置き、固定観念にとらわれず、様々な分野の研究者と協同し、前人未踏の分野に新たな発想で挑戦していきたい。

## ＜ 名工大での 16 年間 ＞

情報工学教育類 梅崎 太造

長崎市内の中学を卒業してから佐世保で 5 年（佐世保高専：電気工学）、豊橋で 4 年（豊橋技科大の学部と大学院：情報工学）、名古屋で 6 年（名大の大学院：情報工学と助手）、春日井で 13 年（中部大：電子工学と情報工学）の後、2003 年 4 月に名工大産業戦略工学専攻に着任してから 16 年間勤めさせて頂きました。私の人生で最も長く勤務したことになります。高専では強電系を学んでいましたが、実験の最中誤って感電してしまい、怖くなってその後情報の分野に鞍替えしました。弱電の世界なら命を落とす程のことは

ないだろうという単純な考えでしたが、今思えば電気・電子・情報と電気系3分野を全て学べたことが、これまでの研究に役立っていると感じます。

2002年、名工大に産業戦略という新しい専攻ができるから来ないかと誘って頂きました。当時まだ中部地区では、ほとんど見なかった大学発ベンチャーを既に起業していたことが評価されたのだと思います。産業戦略では、2年コースの一般院生と1年コースの社会人院生が混じって授業を受けるというスタイルでした。院生も先生方も異分野・異業種の方達ばかりで、情報の分野で常識(価値観)と思っていたことが通用しないという一種のカルチャーショックを受けました。特に火曜 18:00-21:00 のプレゼンテーションと木曜 18:00-21:00 の事例研究(Case Study)では、中々共通の評価規定を見出せず、毎回言い争いになっていたことを思い出します。最初の2~3年は、他研究室の研究内容がまるで外国語を聞いているような状況でちんぷんかんぷんでしたが、徐々に他分野の研究内容や技術内容が分かるようになり、これこそが異業種交流と感じるようになりました。毎週事例研究の後、院生・先生達・外部講師の先生と鶴舞の駅近くで飲食しながら交流を深めたことと、毎年恒例の超厳しい全員合宿により多くの時間を共にしたことが思い出です。名工大では2003年度からの法人化に合わせて4領域制が導入されたわけですが、その主目標であった学内の横断的研究交流を最も強制的かつ実践的に取り組めたのが産業戦略の成果であったと感じます。

近年の学部の講義としては、計算機基礎、デジタル電子回路、プログラミング3、ヒューマンインターフェイスを担当し、大学院では知的財産権技術開発特論とメディアシステム特論を担当しました。実際に自分のアイデアを特許化するための調査と特許出願の書類作成や認識プログラムの開発(タッチタイプトレーニング、音声・画像認識、人工神経回路網による画像認識)を実施しました。学生には若干ハードルが高かったかもしれませんが、実践的な授業ができたと思っています。

学位取得時の私の専門は音声認識でしたが、名工大では、個人認証、動体検知と認識、各種工業製品

の画像検査、三次元形状計測、AI型ロボットの産業利用など研究内容が大幅に変わりました。ただし、これらの基本技術は音声・画像処理技術を転用しており、これまで熱心にご指導頂いた中川聖一先生(豊橋技科大)、鳥脇純一郎先生(名大)、板倉文忠先生(名大)、金出武雄先生(Carnegie Mellon University)にお礼を申し上げます。

この16年間で、共著書4冊、学会誌論文47件、国際学会発表51件、特許出願71件、特許取得40件、4つの大学発ベンチャー起業と、優秀な学生や企業の共同研究者に恵まれて成果を出すことができました。博士号取得者は12名になります。2006年にはNEDOに採択され、研究室の学生全員で開発した愛知万博出展の鬼ごっこロボット「ASKA」がグッドデザイン賞を受賞しました。貴重な経験の場を与えて頂いた名工大に心より感謝致します。映画会と先生方の益々の発展とご健勝を祈念いたします。

## < 平成30年度の就職状況について >

### 電気電子工学教育類 就職担当 岩崎 誠 (E61)

電気電子工学教育類の就職担当教員として、平成31年3月卒業予定の学生を対象に、進路指導を務めさせていただきました。対象学生は、第一部電気電子工学科144名、第二部電気情報工学科5名(電気電子分野)、電気電子分野に関係した研究室に所属する大学院博士前期課程学生123名(電気・機械工学専攻106名、物理工学専攻9名、情報工学専攻8名)、博士後期課程2名の、総計274名でした。例年同様、学部生は進学希望者が多く、3月末時点で進学者111名、就職28名です。一方、博士前期課程の大学院生は民間企業への就職希望が殆どで、就職119名、進学者1名であり、博士後期課程の2名は共に民間企業に就職します。

求人企業・業種はここ数年のトレンドに大きな変化は無く、昨今の売り手市場が続く中、電機、自動車、電力など電気電子に関連する企業のみならず、材料・素材・インフラなど幅広いメーカー約600社から求人を頂戴しました。年末から2月の約3ヶ月間を中心に、

200社超の企業面談をさせていただきましたが、企業業種としては機械・化学・材料や技術人材派遣が圧倒的に多く、医療・製薬やセキュリティー会社などからも強いリクエストがありました。それらのメーカーは、生産設備・管理業務に人材が必要であるという理由が殆どであり、電気電子工学分野を学んだ学生への強い期待を感じました。数学や物理ベースの学問を学修した学生が、我が国さらにグローバルなものづくり産業にとって、ある意味“潰しの利く”人材であるということをお話しているのでしょう。一方、名古屋市や愛知県を始め、近隣自治体からの公務員の求人も相当数ありました。その業務は警察や港湾業務など多岐に渡り、出向や転勤が無いなどの売りも併せて、魅力ある職場とのメッセージを多く頂戴しました。雑誌等の報道では学生の地方公務員への人気は高いとのことですが、残念ながら本学科では希望は少ないものとなっています。

選考スケジュールやその過程に関しましては、経団連の採用選考指針に基づき、会社説明会は3月1日解禁、選考は6月1日から開始で、昨年度と同様でした。しかし、ご存知の通り経団連の指針は殆ど有形無実で、実際には「3月にエントリーシート提出、その後順次選考」といったところでしょうか。昨年末の経団連からの発表により、今後はさらに活動時期が前倒しになることが予想されますが、実感としては各社各様の活動と時期の早期化は既に始まっています。さらに、国や大学が学生へのインターンシップを推奨していますが、インターンシップを採用活動に連動する企業も多く、“インターンシップ枠”なる選考トラックも散見されます。その結果、特に大学院生は冬期・夏期の休講期間に競ってインターンシップに出掛け、長期化する就職活動に時間を割き、学業をいつするのだろうか？という我が国にとって極めて深刻な状況に陥っていると思います。昨年の本誌記事でも言及されましたが、本来の“学校推薦”制度がほぼ機能しなくなって、選考（いわゆる“ジョブマッチング”）後の確約証程度の位置付けになっていることは、残念でなりません。併せて、多くの学生が特定の会社に偏って

入社する、という傾向は本年度も変わりませんでした。その理由として、昨今の製造業の好況感や、数年前から始まったモビリティの電動化・知能化の波を受け、関連業種が多く電気電子技術者を必要としていることは間違いありません。

以上、ネガティブな状況報告が多く残念ではございますが、前述のように幅広い企業・業種から多くのオファーをいただいている状況から、就職指導の中では「視野を広くして就職活動を行いましょう」「機械・金属・材料系の大企業が、生産技術や生産設備のためにエレクトロニクス技術者を強く求めています」「ニッチトップやグローバルニッチなど、高いシェアを持つ有力な中小企業にも興味を持ちましょう」と推奨しています。今後も、出来る限り多様な企業・業種で卒業生に活躍してもらおうべく、進路指導を改善し続ける所存です。

末筆となりますが、本年度も電影会主催の卒業生と学生との懇談会や、大学主催の企業セミナーを3月早々に開催していただき、これらの行事は学生にとって極めて有意義であったと思います。様々なご支援を頂戴している同窓の方々をはじめ、関係者皆様に厚く御礼申し上げます。大学・学生にとって、企業にとって、そして我が国のためにより良い進路指導になりますよう、引き続きご理解・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

#### 情報工学教育類 就職担当 李 晃伸

平成30年度の情報系学部・大学院の就職担当を務めさせていただきました。今年度は大学院修士学生117名、第一部学部学生167名、第二部学部学生2名の計286名を担当しました。情報系に対する求人は385社で、そのうち336社から推薦枠による求人をいただきました。IoT、ディープラーニング、センシングなどに象徴されるいわゆるAI技術が広範囲な業種にわたって影響を及ぼしており、物流、建築、ホームオートメーション、音楽など、情報系にこれまで馴染みの薄い業界を含め、様々な企業から求人をいただきました。

---

---

また、本学情報工学専攻・教育類に学校推薦による求人を出していただいた企業も増加しており、新しい企業だけでなく、従来は自由応募のみであったいわゆる大手企業からも本年度から推薦の求人をお申し込みいただきました。私は就職担当として146社と面談しましたが、この面談数は昨年度から大幅に増えており、情報分野に対する産業界からの高いニーズと期待を感じました。このように、求人数は学生数に比べて十分に大きい状態であり、30年度も多様な選択肢が提示されているという点で、学生にとっては恵まれた状況であったと言えます。とりわけ、ワークライフバランスや働く女性への継続的サポートを前面に押し出されている企業が増え、女子学生にも十分な選択肢が示されて不利を全く感じさせない状況でした。また留学生についても早々に大手メーカーへの狭き門をくぐり進路を決定する人が続出しました。おかげさまで、ほぼ100%に近い進路決定率を今年も維持することができました。

昨年度に引き続き、本年度もOB/OGの皆様による研究室訪問、ならびに働き方・業界紹介の機会等を本学学生に多くご提供いただきました。加えて、電影会が主催された卒業生と学生の懇談会では、大変多くのOB/OGの方々にご参加いただきました。就職担当へのご来訪者のなかにもOB/OGの方々が多く、学生の進路選択においても本学の卒業生の皆様から多くのご支援を受けていることを実感しました。就職に関する情報が溢れる状況の中、短い活動期間で将来の進路を見定めようとする就活学生にとって、大勢の信頼できるOB/OGから直接話を聞ける機会はとても貴重であり、学生たちの進路選択に大いに参考になっていることを肌で感じました。本当にありがたいことだと思います。

ここ数年、経団連会員企業の申合せにより、3月1日に会社説明などの広報活動、6月1日に面接などの採用選考が解禁とされていますが、実際には企業主催のインターンシップやワークショップが活発に実施されており、3月末や4月早々に内々定を決めてくる学生が多くなっています。今年は就職活動の早期化が

さらに進んでおり、1月には業種を絞り込み、2月末には企業を絞り込む、というスピード感で活動することは珍しくなくなっています。学生の本分である学業や卒業/修士の研究に集中できる期間が確保できるという点で歓迎できることではありますが、夏季休暇や秋季のインターン活動を含めると、実質的な就職活動は前のめりに長期化しているともいえ、これ以上の早期化は難しいとの見方があります。また、企業も学生もマッチングを重視する傾向は年々強まっており、従来型の学校推薦だけでなく、ジョブマッチングによる選考と学校推薦による選考がミックスされたような選考制度が、企業ごとに微妙な違いを含みながらも広がりつつあります。いずれにせよ、企業側にも学生側にも双方にメリットが得られるような選考制度になることが良いことだと思います。就職担当は年度ごとに交代しますので、例年どおり、知り得た知見はしっかりと次年度に引き継ぎ、就職活動を巡る変化にしっかりと対応できる体制を、これからも維持してまいります。

末尾となりましたが、ご支援をいただきましたOB/OGの方々をはじめとするお世話になった皆様に厚く御礼を申し上げます。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成 30 年度事業報告

1. 会合

- 電影会総会 H30.5.18 NITech Hall
- 第 1 回役員会 H30.10.17 名工大 6 号館
- 学内幹事会 H30.1.8 名工大大学会館
- 第 2 回役員会 H31.2.18 名工大大学会館
- 幹事会 H31.3.28 ホテルオークラレストラン

2. 事業

- 学生向け講演会
  - (1) H30.9.20  
Auckland University of Technology 講師 Quan Bai 博士「Agent-based modelling and mining - a brief introduction of my research」
  - (2) H31.1.28  
大同大学 講師 田中 秀和 特任教授「仮想通貨の光と影」
  - (3) H31.1.28  
ごきそ技術士会 講師 橋本 英樹 氏「先人の取り組みに注目しながら技術者倫理について考える」
- 新入生向け電影会案内 H30.4.4
- 卒業祝賀会 H31.3.27
- 電影会会誌発行(第 25 号)H30.4
- 大学行事補助 3 件
- 電影会賞贈呈 H31.3.27
- 卒業生と学生の懇談会 H31.2.22

平成 30 年度決算

| 科目    | 収入        | 科目        | 支出        |
|-------|-----------|-----------|-----------|
| 繰越金   | 4,446,849 | 通信費       | 695,932   |
| 入会金   | 1,200,000 | 印刷費       | 864,286   |
| 工業会より | 70,000    | 事務費       | 1,995     |
| 利息    | 12        | 会合費       | 277,853   |
| 雑収入   | 788,500   | 学生行事補助    | 929,234   |
| 寄付金   | 1,166,739 | 大学行事補助    | 60,000    |
|       |           | 総会補助      | 126,013   |
|       |           | 支部活動費     | 150,000   |
|       |           | インターネット経費 | 9,699     |
|       |           | 雑費        | 9,952     |
|       |           | 人件費       | 324,000   |
|       |           | 繰越金       | 4,223,136 |
| 合計    | 7,672,100 | 合計        | 7,672,100 |

2019 年度事業計画 (案)

1. 会合

- 電影会総会 ○役員会
- 幹事会 ○学内幹事会

2. 事業

- 新入生向け電影会案内 ○学生向け講演会
- 電影会会誌発行 ○卒業祝賀会 ○電影会賞
- 大学行事への補助 ○卒業生と学生との懇談会
- 名古屋工業会との連携

2019 年度予算 (案)

| 科目    | 収入        | 科目        | 支出        |
|-------|-----------|-----------|-----------|
| 繰越金   | 4,223,136 | 通信費       | 680,000   |
| 入会金   | 1,275,000 | 印刷費       | 900,000   |
| 工業会より | 70,000    | 事務費       | 10,000    |
| 利息    | 100       | 会合費       | 350,000   |
| 雑収入   | 800,000   | 学生行事補助    | 950,000   |
| 寄付金   | 1,100,000 | 大学行事補助    | 60,000    |
|       |           | 総会補助      | 120,000   |
|       |           | 支部活動費     | 150,000   |
|       |           | インターネット経費 | 10,000    |
|       |           | 雑費        | 10,000    |
|       |           | 人件費       | 320,000   |
|       |           | 繰越金       | 3,908,236 |
| 合計    | 7,468,236 | 合計        | 7,468,236 |

2019 年度役員(案)

- 名誉会長 井上丈太郎 (E13)  
犬飼英吉 (E28)  
神谷昌宏 (E36)  
中村光一 (E41)  
北村正 (Es48)
- 会長 石橋豊 (J56)
- 副会長 木下清彦 (E36) 川越英二 (E47)  
安藤幹人 (E57) 岩崎誠 (E61)
- 理事 岩塚真之 (E56) 山中清 (J52)  
松尾啓志 (J58) 三宅正人 (E60)  
川村信之 (E53)
- 監事 市原正樹 (E48)
- 庶務理事 廣瀬光利 (E50) 加藤正史 (EJh10)
- 会計理事 酒井公孝 (J54) 立岩佑一郎 (Ih14)
- 編集理事 伊藤孝弘 (EEh25) 武藤敦子 (Ih10)
- 庶務補佐 後藤富朗 (EJh9)
- 会計補佐 岸直希 (EJh12)

## 学位取得者一覧

### 電気・機械工学専攻

平成 31 年 3 月 課程修了者 (授与日:平成 31 年 3 月 27 日)

| 氏名                                      | 論文題目   | 主査教員名 |
|---|--|-------|
| ESAKIMUTHU<br>PANDARAKONE<br>SHRINATHAN | Investigation in Low Voltage Induction Motor for Electro-Mechanical Multiple Failure Detection and Analysis with the Aid of Discrete Diagnostic Method | 水野 幸男 |
| 鈴木 一馬                                   | バッテリー用小型高効率絶縁型 AC/DC コンバータに関する研究   | 竹下 隆晴 |
| 吉田 貴広                                   | 窒化物半導体への Au フリーオーミック電極の形成と Si 基板上 GaN HEMT への応用に関する研究  | 江川 孝志 |

### 情報工学専攻

平成 31 年 3 月 課程修了者 (授与日:平成 31 年 3 月 27 日)

|                     |  |        |
|---------------------|--|--------|
| 河村 直輝               | 医用画像の超解像と再構成   | 本谷 秀堅  |
| 鷺見 典克               | 位相シフト法を用いた高精度計測・検査に関する研究   | 梅崎 太造  |
| 西郷 知泰               | ホログラフィック光学素子を用いた光沢表面の検査方式に関する研究  | 梅崎 太造  |
| MAMTILY NIGHM<br>AT | The Development of Japanese-Uyghur Statistical Machine Translation System with Morphological information | 山本 いずみ |

### 創成シミュレーション工学

平成 30 年 9 月 課程修了者 (授与日:平成 30 年 9 月 5 日)

|       |                       |       |
|-------|-----------------------|-------|
| 吉村 建慶 | 統計的音声合成のための音響・波形モデリング | 徳田 恵一 |
|-------|-----------------------|-------|

平成 31 年 3 月 課程修了者 (授与日:平成 31 年 3 月 27 日)

|       |  |       |
|-------|--|-------|
| 前田 慶博 | Acceleration of Edge-Preserving Filtering on CPU Microarchitecture | 松尾 啓志 |
|-------|--|-------|

## 入試・就職状況

昨年度の入試状況と就職状況は以下の通りです。

### 平成 30 年度入学者選抜状況

#### 電気・機械工学科 (一部)

|      | 推薦 | 前期日程 | 後期日程 |
|------|----|------|------|
| 募集人員 | 20 | 110  | 70   |
| 志願者数 | 59 | 412  | 549  |
| 受験者数 | 59 | 398  | 263  |
| 合格者数 | 22 | 113  | 91   |

#### 情報工学科 (一部)

|      | 推薦 | 前期日程 | 後期日程 |
|------|----|------|------|
| 募集人員 | 15 | 85   | 45   |
| 志願者数 | 46 | 264  | 315  |
| 受験者数 | 46 | 252  | 167  |
| 合格者数 | 16 | 87   | 55   |

### 第一部私費外国人留学生特別選抜

|      | 電気・機械工学科 | 情報工学科 |
|------|----------|-------|
| 募集人員 | 若干名      | 若干名   |
| 志願者数 | 37       | 40    |
| 受験者数 | 35       | 34    |
| 合格者数 | 6        | 6     |

### 編入学・転入学 (一部:3年)

( )は内数で転入学数を表す

|      | 電気・機械工学科<br>(電気電子分野) | 情報工学科 |
|------|----------------------|-------|
| 募集人員 | 若干名                  | 若干名   |
| 志願者数 | 32(1)                | 15(1) |
| 受験者数 | 29(1)                | 13(1) |
| 合格者数 | 9(1)                 | 5     |

### 電気情報工学科 (二部:一般選抜前期日程)

| 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 |
|------|------|------|------|
| 5    | 37   | 33   | 6    |

大学院・電気・機械工学専攻(博士前期課程)

|      | 推薦 | 一般選抜 | 私費留学生 |
|------|----|------|-------|
| 募集人員 | 54 | 84   | 若干名   |
| 志願者数 | 58 | 202  | 14    |
| 受験者数 | 58 | 198  | 14    |
| 合格者数 | 57 | 169  | 5     |

大学院・情報工学専攻(博士前期課程)

|      | 推薦 | 一般選抜 | 私費留学生 |
|------|----|------|-------|
| 募集人員 | 35 | 75   | 若干名   |
| 志願者数 | 35 | 112  | 23    |
| 受験者数 | 35 | 109  | 21    |
| 合格者数 | 33 | 91   | 9     |

大学院・電気・機械工学専攻(博士後期1次募集)

| 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 |
|------|------|------|------|
| 9    | 1    | 1    | 1    |

大学院・情報工学専攻(博士後期1次募集)

| 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 |
|------|------|------|------|
| 7    | 2    | 2    | 2    |

大学院・国際連携情報学専攻(博士後期)

| 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 |
|------|------|------|------|
| 2    | 2    | 2    | 2    |

大学院・電気・機械工学専攻(博士後期2次募集)

| 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 |
|------|------|------|------|
| 若干名  | 8    | 8    | 8    |

大学院・情報工学専攻(博士後期2次募集)

| 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 |
|------|------|------|------|
| 若干名  | 2    | 2    | 2    |

大学院・電気・機械工学専攻(博士後期3次募集)

| 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 |
|------|------|------|------|
| 若干名  | 1    | 1    | 1    |

平成30年度卒業生就職状況

|         | 電気電子工学科 |     |    | 情報工学科 |     |    |
|---------|---------|-----|----|-------|-----|----|
|         | 大学院※    | 一部  | 二部 | 大学院※  | 一部  | 二部 |
| 卒業生     | 122     | 148 | 4  | 123   | 159 | 2  |
| 進学者     | 2       | 110 | 2  | 4     | 123 | 1  |
| 研究生     | 0       | 0   | 0  | 0     | 0   | 0  |
| 一般企業    | 113     | 27  | 2  | 116   | 32  | 1  |
| 公務員     | 0       | 1   | 0  | 0     | 1   | 0  |
| 教員      | 0       | 0   | 0  | 2     | 0   | 0  |
| 帰国(留学生) | 1       | 0   | 0  | 0     | 0   | 0  |
| 休学他     | 5       | 9   | 0  | 0     | 0   | 0  |
| 未定者     | 1       | 1   | 0  | 1     | 3   | 0  |

※電気・機械工学専攻(電気電子分野)・創成シミュレーション工学専攻を含む

電影会賞

この賞は、電影会準会員の向学心向上と優秀な学生の育成を目的とし、卓越した成績で卒業し、今後の科学技術の発展に貢献すると思われる有望な学生を表彰することを目的としています。平成30年度の実賞者は以下の方です。

| 氏名, 所属             |
|--------------------|
| 伊藤 健太, 第一部電気電子工学科  |
| 藤井 雄基, 第一部電気電子工学科  |
| 時長 剛志, 第一部電気電子工学科  |
| 伊藤 航平, 第一部電気電子工学科  |
| 伊藤 陽平, 第一部電気電子工学科  |
| 佐久間 義稀, 第一部電気電子工学科 |
| 浅野 恵介, 第一部電気電子工学科  |

| 氏名, 所属          |
|-----------------|
| 浅田 雅裕, 第一部情報工学科 |
| 古賀 諒一, 第一部情報工学科 |
| 佐藤 諒祐, 第一部情報工学科 |
| 鈴木 進也, 第一部情報工学科 |
| 戸田 博己, 第一部情報工学科 |
| 丹羽 貴敏, 第一部情報工学科 |
| 岩崎 省吾, 第一部情報工学科 |
| 坂元 律矛, 第一部情報工学科 |

学生の表彰

紙面の都合上、受賞内容の詳細は省略させていただきます。

| 賞の名称, 氏名, 所属, 指導教員氏名   |
|--|
| 電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 電気学会 B 賞 (2019.1), 近藤大貴, 電気機械工学専攻, 青木睦准教授                     |
| 電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 IEEE 賞 (2019.1), Tran Vu Trung, 電気機械工学専攻, 岩崎誠教授               |
| 電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 IEEE 賞 (2019.1), 武田啓佑, 電気機械工学専攻, 岩崎誠教授                        |
| 名古屋工業大学基金学生研究奨励 副学長表彰 学術活動部門 (2019.2), 鷲見典克, 情報工学専攻, 梅崎太造教授                        |
| IEEE EMC Society Japan Joint Chapters Student Award (2019.3), 小池啓介, 電気・機械工学専攻, 王建青 |
| 電子情報通信学会 無線通信システム研究会活動奨励賞 (2018.5), 伊藤啓太, 電気・機械工学専攻, 岡本英二准教授                       |

|  |
|--|
| 電子情報通信学会 東海支部学生研究奨励賞 (2018.6), 北川博規, 電気・機械工学専攻, 岡本英二准教授  |
| 電子情報通信学会 革新的無線通信技術に関する横断型研究会 MIKA2018 若手最優秀部門ポスター賞 (2018.9), 長谷川遼, 電気・機械工学専攻, 岡本英二准教授  |
| International Conference on Information Networking, Best Paper Award (2019.1), 伊藤啓太, 電気・機械工学専攻, 岡本英二准教授  |
| 名古屋工業大学基金学生研究奨励 副学長表彰 学術活動部門 (2019.2), 伊藤啓太, 電気・機械工学専攻, 岡本英二准教授  |
| 第 80 回情報処理学会全国大会 学生奨励賞 (2018.3), 稲吉陽一朗, 情報工学専攻, 加藤昇平教授   |
| 第 80 回情報処理学会全国大会 学生奨励賞 (2018.3), 北河茜, 情報工学専攻, 加藤昇平教授   |
| 第 19 回日本感性工学会大会 優秀発表賞 (2018.9), 加藤瑛樹, 情報工学専攻, 加藤昇平教授   |
| 第 19 回日本感性工学会大会 優秀発表賞 (2018.9), 鈴木晃平, 情報工学専攻, 加藤昇平教授   |
| IEEE GCCE 2018 Outstanding Student Paper Award (2018.10), 福田和彰, 情報工学専攻, 加藤昇平教授   |
| 第 17 回情報学ワークショップ(WiNF)最優秀賞 (2018.11), 伊原滉也, 情報工学専攻, 加藤昇平教授   |
| 第 17 回情報学ワークショップ(WiNF)奨励賞 (2018.11), 福田和彰, 情報工学専攻, 加藤昇平教授  |
| The Best Oral Presentation, International Conference on Digital Medicine and Image Processing (2018.11), 宗澤翼, 情報工学専攻, 後藤富朗准教授  |
| 第 13 回情報危機管理コンテスト JPCERT/CC 賞 (最優秀個人賞) サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム実行委員会 (2018.5), 林優香, 情報工学専攻, 齋藤彰一教授   |
| 第 13 回情報危機管理コンテスト ベストテクニカル賞 サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム実行委員会 (2018.5), 林優香, 青木和也, 西村賢太, 情報工学専攻, 村上恒, 情報工学科 (チーム受賞: P01TERGEIST), 齋藤彰一教授   |
| 名古屋工業大学基金学生研究奨励 学長表彰 特別功労部門 (2019.2), 林優香, 情報工学専攻, 齋藤彰一教授  |
| Vietnam-Japan International Symposium on Antennas and Propagation, Young Scientist Award (2018.5), Nguyen Thanh Tuan, 電気・機械工学専攻, 榊原久二男教授   |
| IEEE 優秀学生賞 (2018.6), IEEE Conference on Computer Vision and Pattern Recognition, 榊原直紀, 情報工学専攻, 佐藤淳教授, 坂上文彦准教授  |
| MIRU 長尾賞, 第 21 回 画像の認識・理解シンポジウム (2018.8), 樋口隆寛, 情報工学専攻, 佐藤淳教授, 坂上文彦准教授   |
| 第 21 回情報論的学習理論ワークショップ 学生優秀プレゼンテーション賞 (2018.11), 井上茂乗, 情報工学専攻, 竹内一郎教授   |
| 第 21 回情報論的学習理論ワークショップ 学生優秀プレゼンテーション賞 ファイナリスト (2018.11), 戸田博己, 情報工学科, 竹内一郎教授  |
| 名古屋工業大学基金学生研究奨励 学長表彰 学術活動部門 (2019.2), 鈴木一馬, 電気・機械工学専攻, 竹下隆晴教授  |
| 電気学会 部門奨励賞 (若手奨励賞 副賞 高橋勲賞), 本部表彰 (2019.8), 鈴木一馬, 電気・機械工学専攻, 竹下隆晴教授   |
| 電気学会産業応用部門大会 優秀論文発表賞 (2019.8), 松浦亮平, 電気・機械工学専攻, 竹下隆晴教授   |
| The 2nd cross-disciplinary Workshop on Computing System, Infrastructures, and Programming, Outstanding B4 Student Award (2018.5), 林昌樹, 情報工学専攻, 津邑公暁准教授                                   |
| 電子情報通信学会 東海支部 学生研究奨励賞 (2018.6), 河村慎二, 情報工学専攻, 津邑公暁准教授  |
| 情報処理学会 第 223 回 システム・アーキテクチャ研究会 若手奨励賞 (2018.7), 多治見知紀, 情報工学専攻, 津邑公暁准教授  |
| 電子情報通信学会 コンピュータシステム研究会 優秀若手発表賞 (2018.7), 二間瀬悠希, 情報工学専攻, 津邑公暁准教授  |
| 名古屋工業大学基金学生研究奨励 副学長表彰 学術活動部門 (2019.2), 多治見知紀, 情報工学専攻, 津邑公暁准教授  |
| 日本音響学会東海支部優秀発表賞 (2018.12), 池浦史芳, 情報工学専攻, 徳田恵一教授  |
| 日本音響学会東海支部優秀発表賞 (2018.12), 丹羽純平, 情報工学専攻, 徳田恵一教授  |
| 日本音響学会東海支部優秀発表賞 (2018.12), 法野行哉, 情報工学専攻, 徳田恵一教授  |
| 日本音響学会 秋季研究発表会 第 18 回学生優秀発表賞 (2019.3), 法野行哉, 情報工学専攻, 徳田恵一教授  |
| 電子情報通信学会東海支部学生研究奨励賞 (2018.6), 沢田慶, 創成シミュレーション工学専攻, 南角吉彦准教授   |
| 電気学会 産業応用部門大会 優秀論文発表賞 (2018.8), 郷直樹, 電気・機械工学専攻, 前田佳弘准教授  |
| The 9th TOYOTA RIKEN International Workshop on New Developments and Prospects for the Future of Mössbauer Spectroscopy, IWMS2018 Poster Award (2018.11), 宮地亮汰, 物理工学専攻 (旧電気電子工学科卒), 壬生攻教授 |
| 強制的秩序とその操作に関わる研究グループ 第 7 回研究会 ポスター最優秀賞 (2018.9), 大政達郎, 物理工学専攻 (旧電気電子工学科卒), 壬生攻教授   |
| 日本電気技術者協会中部支部霜寿賞 (2019.3), 大森啓士, 第二部電気情報工学科, 森田良文教授  |
| 名古屋工業会賞 (2019.3), 本田康平, 電気電子工学科, 森田良文教授  |
| The IEEE 2019 International Conference on Mechatronics (ICM2019), Best Student Paper Award (Second Place), 立花 弘貴, 電気・機械工学専攻, 前田佳弘准教授   |
| 計測自動制御学会 SI2018 優秀講演賞 (2019.3), 加藤貴之, 電気・機械工学専攻, 森田良文教授  |

## 電影会運営資金寄付者

以下の方々より寄付をいただきました。ご高配に厚く御礼申し上げます。なお、学科の略語の記載を省略し、卒業年のみ記載させて頂きましたので予めご了承ください。平成31年2月末までの寄付分を掲載しております。

- 昭16 杉山貞夫 横井實
- 昭20 伊藤博英
- 昭22 坪居好夫 玉田博二 西川清司 村上庄之介
- 昭23 瀬尾孝之 竹内節 中井二夫 中島昭一 古川氏典  
分部力 牧野和正 三島俊治 水谷末一 宮内孟
- 昭24 井上高明 守友孝夫
- 昭25 青山春彦 安良城勝也 泉館昭則 荻野孝  
後藤正 白井光雄 須田馨 中村正夫 山田清次
- 昭26 沖辻寛 加藤正昭 小林繁利 阪口貢  
原行一 吉野毅
- 昭28 嶋田宏 杉岡太郎 山田速水
- 昭29 太田耕二 國枝誠昭 志賀擴 西垣茂  
渡邊康男
- 昭30 内田忠良 加藤規 北野祐一
- 昭31 大嶋光朗 後藤領次 成瀬庄一
- 昭32 植田俊男 岡野修 水谷安郎
- 昭33 荒井英二 伊藤正秋 金谷嘉博 木村欽哉 寺社下政美  
杉浦勇 瀬口令夫 寺林康治 中谷恭朗 藤田正浩 松  
山幸夫 森下正三 山田悦弘
- 昭34 草野洋 鈴木倭 幅敏明
- 昭35 梅野正義 岡田昌孝 後藤秋生 藺田耕一 中西和義
- 昭36 木下清彦 黒田和助 西村秀夫 馬路才智  
増田勝一 日比野孝雄
- 昭37 田中一義 野田昭
- 昭38 小田切啓幸 是木修一 杉岡修次 中谷光男 八代弘
- 昭39 岩間紀男 岡田守弘 田村英也 水澤健一  
矢田公一 吉田嶽彦
- 昭40 大西旻 小澤容 大隅東也 山本健美
- 昭41 神本勝巳 武井恵一 中村光一 八神正彦
- 昭42 阿江勉 青木猛 伊藤洋太郎 衛藤邦彦 川島征一郎  
小島一男 櫃本紘一 中山静夫 水野重雄 吉村洋典
- 昭43 宇高正晴 加藤尚志 小泉隆弘 板津武志  
沢野勝 重見健一 世古澄人 高橋俊之  
滝下敬章 鶴見允俊 萩本範文 平岩邦彦  
福政修 長谷川溥 堀尾猛 松原英章  
百瀬次生 湯木勝 湯木攻 横江勇
- 昭44 柴田俊夫 菅野宗二 佐藤恒夫 田邊郁夫
- 昭45 須藤章夫 櫛部精次郎 松崎敦志 南陽太郎  
無記名者一名
- 昭46 津田孝明
- 昭47 加藤元三郎 川越英二 川橋憲 川合勝廣  
星野幸吉 田島耕一 山内一昭
- 昭48 市原正樹 北村正 中島正敏 三木敏裕  
米山高志
- 昭49 朝倉吉隆 緒方善郎 高柳慎
- 昭50 浅井良一 多田健一 中川賢治 浜岡重男  
廣瀬光利 眞鍋和人
- 昭51 岩波保則 恩地秀男 東功 吉村元  
馬嶋俊作 山平拓也
- 昭52 内海和彦 並川理 宮脇誠 山口好孝
- 昭53 稲永俊二 川村信之 東山禎夫 明慶寧
- 昭54 大江準三 大前義信 片岡良平 木津武義  
酒井公孝 村上仁志 吉田誠治

- 昭55 城ノ口秀樹
- 昭56 浅羽哲朗 石橋豊 岩崎政彦 社本純和  
萩原秀和 山口初一
- 昭57 青柳昌宏 安藤幹人 内匠逸 菊間信良  
鈴木克彦 高橋清 谷本弘二 野口敏彦  
鷺尾康史
- 昭58 松尾啓志
- 昭59 徳田恵一 酒井泰誠 柴田伝幸
- 昭61 伊藤英高 熊崎昭 高石一慶
- 昭62 大塚信博 小栗宏次 羽賀政雄
- 昭63 鎌田和弘 佐藤俊樹 後藤篤  
平元 林敬 三浦篤志 八木健 林宏明
- 平2 渋谷貴利
- 平3 谷口一哉
- 平4 野村尚史
- 平7 伊藤孝行 松井俊浩
- 平10 加藤正史
- 平11 酒向慎司
- 平12 竹尾淳
- 平15 川原淳平
- 平16 前田佳弘
- 平20 宮崎恭平 加藤慎也
- 平21 長谷川拓矢 本種和弘
- 平28 湯浅詠梨 長尾英剛

## 学 科 近 況

◎ 学科役職(新年度の電影会関連教職員のみ)

2019年度電気・機械工学教育類・専攻  
教育類長/専攻長 長谷川 豊 教授  
副教育類長/副専攻長 平田 晃正 教授

2019年度情報工学教育類・専攻  
教育類長/専攻長 本谷 秀堅 教授  
副教育類長/専攻長 和田山 正 教授  
竹内 一郎 教授  
佐藤 淳 教授

2019年度就職担当  
電気・機械工学教育類 安井 晋示 教授  
情報工学教育類 片山 喜章 教授  
伊藤 嘉浩 准教授

◎ 2018年度退職教職員  
情報工学教育類 梅崎 太造 教授

◎ 2018年度新任教職員  
電気・機械工学教育類 松盛 裕明 助教  
情報工学教育類 Ahmed Moustafa 准教授  
大塚 孝信 准教授  
橋本 佳 准教授

## 総会通知

2019年度電影会総会並びに懇親会のお知らせ

日時：2019年5月17日(金)

17時00分～20時30分

会場：名古屋工業大学

<総会・講演会> NITech Hall (新講堂)

<懇親会> 大学会館1階 生協大食堂

<http://www.nitech.ac.jp/access/index.html>

会次第:

16時30分 総会受付開始 (NITech Hall 入口)

17時00分 総会

17時30分 講演会 (NITech Hall)

演題: 「国民4000万人を支えるシステム開発とビジネスマインド」

講師: 小林 真雄 様

(株式会社NTT データ 第二公共事業本部ヘルスケア事業部 第二統括部 第一国保システム担当 課長代理)

18時30分 懇親会 (大学会館1階 生協大食堂)

懇親会会費: 5,000円 (一般) 2,000円 (学生)

(当日会場受付で頂きます)

なお、昭和44年3月の御卒業で総会に御出席の各位には、ご卒業満50年をお祝いいたしましてご招待させていただきます(会費無料)とともに、ささやかではありますが、記念の品をお贈りいたします。

今年も学科長、就職担当教授をはじめ多数の教員、博士後期課程(ドクターコース)の留学生を含む在学生も出席予定です。皆様お誘い合わせの上のご出席をお待ち致しております。

## 関西支部からのお知らせ

当支部では毎年7月に支部総会を開催しています。

今年も以下の予定で計画中です。ご予約お願い致します。

日時: 2019年7月13日(土)18時ごろから

場所: メルパルク大阪(新大阪駅から西へ徒歩約4分)

皆様お誘いの上ご参加いただきますようお願いいたします。

連絡先は 村上仁志(Es54) 〒590-0046 堺市堺区三条通4-7

メールの方は [kansai@denei.jp](mailto:kansai@denei.jp)

昨年の支部総会は、豪雨にもかかわらず17名の皆さんに集まっていた盛況に開催できました事、この場をお借りして御礼申し上げます。

今年も幅広い年代の方々にお集まりいただき、相互交流を深めていただければ幸いです。

関西支部長 川越英二 E47

## 名古屋工業会総会のご案内

名古屋工業会2019年度定期総会及び会員総会が、2019年5月18日(土)に開催されます。皆様奮ってご参加のほどよろしくお願い致します。

## 電影会寄付募集のお願い

現在、電影会は名工大へ入学時に皆様からお納めいただいた会費、並びに卒業された皆様からの寄付金によって運営されています。

でんえい会誌の発行やホームページによるサービスを始め、電影会の運営をスムーズに行うため、今後とも皆様からの寄付をお願いいたしたく存じます。よろしく願い申し上げます。

尚、寄付をいただいた方は、次号にお名前を掲載させていただきます。

|        |                   |
|--------|-------------------|
| 一口     | : 2000円           |
| 郵便振込先: | 00860-9-19618 電影会 |

## 名古屋工業大学基金寄付募集のお願い

現在、名古屋工業大学は皆様からの寄附を募集しております。詳しくは名古屋工業大学基金のウェブサイト(<http://www.nitech.ac.jp/kikin/>)をご覧ください。

## 投稿記事の募集

でんえい会誌の記事を募集いたしますので、会員の皆様からの積極的なご投稿を電影会までお願いいたします。1ページ約1600字です。

編集委員 岩崎誠(E61) 伊藤孝弘(Eeh25)  
加藤正史(EJh10) 武藤敦子(Ih10)  
立岩佑一郎(Ih14)

発行 名古屋工業大学内電影会

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

加藤正史 庶務理事

E-mail: [office@denei.jp](mailto:office@denei.jp) URL: <http://www.denei.jp/>

## 名簿充実にご協力をお願いします

現在、電影会は約15,000人の存命会員を擁しています。その中で電影会誌をお届けできているのは半数に過ぎず、あとの半数は消息不明となっています。わたしたちは、より多くの方々に電影会誌をお送りすることで、絆を強くし、多くの情報、質の高いサービスを名工大とともに提供して参りたいと考えています。そこで、名簿の信頼性向上と充実、消息不明数の縮減を進める必要があります。名簿上は消息不明の方も同級生との間で連絡可能であることが少なくありません。同級生の最新名簿をお持ちの方におかれては、是非、その名簿を電影会事務局に送って頂きたいとお願ひ申し上げます。まずは、ご一報ください。(meibo@denei.jp)